

平成 25 年度厚生労働省科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
分担研究報告書

「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」

研究分担者 平岡 崇 川崎医科大学リハビリテーション医学教室准教授

研究要旨

中国ブロックの平成 25 年度の活動としては、原則過去の活動方針を踏襲しており大きな変更点はない。中国ブロックとしての核となる活動として、本年度も下記のごとく 1 回/年の中国ブロック連絡協議会(以下 本協議会)と研修会を実施した。本協議会は、各県拠点機関職員および家族会代表者(オブザーバーとして行政担当者など)で構成されている。本協議会ならびに研修会は各県持ち回りで実施しており、本年度は島根県松江市で開催された。本協議会の場において、平成 26 年 2 月 20 日 21 日に東京で開催された全国連絡協議会ならびにコーディネーター会議での会議内容につき説明を行い、中国ブロックでも意思統一を図った。続いて、各県から報告をいただいたが、中国 5 県すべてに共通する課題として、小児の高次脳機能障害への対応の未整備、支援の地域間均霑化の問題などが挙げられた。今後とも引き続き、高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に向け統一した大方針のもと全力で取り組むことが確認された。

A. 研究の目的

中国ブロックにおいて地域の特性を踏まえ高次脳機能障害者の社会参加支援を推進するために有効な方策を検討することを目的とする。

B. 研究の方法

各県の支援拠点機関を中心に実情に応じた社会参加支援を実施しその方法等につき検討を行う。

各県の支援実績や支援上の問題点などにつき、中国ブロック連絡協議会(1 回/年)にて報告することで情報の共有・分析を行い、より効果的支援につなげるための検討を行う。

(倫理面への配慮)

本研究は「ヘルシンキ宣言」ならびに「疫学研究に関する倫理指針」(平成 20 年 12 月 1 日一部改正)を遵守し実施する。得られた調査結果は本研究の目的のみに使用する。本研究結果の発表の際には個人の特定ができないよう万全の配慮をする。個人情報の開示が必要な場合は、本人および家族の同意を書面にて行う。また本研究については随時参加撤回が可能である。

C. 研究結果

1. 中国ブロック連絡協議会の体制

厚生労働省「高次脳機能障害支援ネットワーク」研究班の指針に則り、各県拠点機関職員および家族会代表者(オブザーバーとして行政関係者)で委員を構成し、中国ブロック連絡協議会を組織した。本協議会の委員長には中国ブロック統括である平岡崇が、副委員長には、後藤祐之(福祉部門)・八木真美(医療部門)の両名が選任された。

2. 中国ブロック全体での活動

中国ブロック連絡協議会

日時：平成 26 年 3 月 8 日(土) 12:45~14:00

場所：島根県民会館(島根県松江市殿町 158)

中国ブロック研修会

日時：平成 26 年 3 月 8 日(土) 14:30~17:15

場所：島根県民会館 3階大会議室（島根県松江市殿町 158）

内容 テーマ「地域で生きる」

（１）講義「地域における高次脳機能障がい者支援の取組」

講師 高橋幸男氏（エスポアール出雲クリニック 院長）

（２）シンポジウム「地域で生きる」

当事者A（説明者：新藤優子氏 高次脳機能障害デイケアきらり 管理者）

当事者B（説明者：坂根勉氏 亀の子サポートセンター 管理者）

主治医 高橋幸男氏（エスポアール出雲クリニック 院長）

コメンテーター 東川悦子氏（日本脳外傷友の会 理事長）

座長 土江啓悦氏（島根県支援コーディネーター）

2 各県における活動実績

【岡山県】

支援拠点機関	川崎医科大学附属病院 社会福祉法人旭川荘のぞみ寮	電話番号 086-462-1111 電話番号 086-245-7361
支援 Cd	2名（言語聴覚士・精神保健福祉士）	
相談者数（12月末）	相談延べ件数 【川大附属病院分】 直接相談 419件（高次脳外来、出張、電話、メール・郵便） 間接相談 112件（高次脳外来、出張、電話、メール・郵便） 【旭川荘分】 直接相談 141件（施設内、出張、電話、メール・郵便） 間接相談 240件（施設内、出張、電話、メール・郵便）	
活動実績	1 ワーキンググループ活動の実施 （１）医療 WG ・症例検討会、勉強会の実施 計6回、参加延べ人数 164名 （２）福祉 WG ・日中活動の実施、失語症者の受入 ・福祉サービス利用、年金受給、職場復帰に係る個別相談 ・県北（真庭市）のサービス窓口設置に係る調整 （３）地域連携 WG ・家族会の理事会、定例会、行事などへの参加 ・症例を介した関係機関との連携 ・講習会、研修会の実施（詳細は研修会等開催実績参照） （４）小児 WG ・高次脳機能障害児のデータ集積 ・各症例に対する治療と個別支援（教育機関等との連携） ・旭川荘療育アカデミーにおいて講習会の実施 （５）失語 WG ・就労支援施設を利用している失語症者を対象とする就労支援調査の作成と実施。 （６）精神科 WG	

	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援をとおした各精神科機関、心療科との連携を行った。 7 その他 ・脳外傷友の会モモ、工房かたつむり、シードの会活動への協力 ・高次脳機能障害に関する研修を実施する機関への協力。
次年度の活動予定および課題など	<p>1 次年度の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各 WG 活動の継続 ・高次脳外来受診者の社会復帰状況の調査 ・県北におけるサービス窓口の設置 <p>2 課題等</p> <p>(1) 教育関係機関との連携 個別支援における教育機関との連携を進めるとともに、普及啓発を目的とする研修会を開催するにあたって、旭川荘療育アカデミーや教育機関等、教育分野との連携を必要とする。</p> <p>(2) 失語症 就労支援調査の継続と検証</p> <p>(3) 小児 個別支援を継続し、症状や治療、支援を含めるデータを増やして、検証を行うこと。</p> <p>(4) 精神科 精神科機関との更なる連携が図れるように目指すこと。</p> <p>(5) 県北(真庭市)のサービス窓口の設置を周知し、運営を軌道にのせること。</p>

研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
6月2日	失語症友の会連合会全国大会	全国の失語症友の会会員、家族、支援者、200名	20年後の失語症、種村純
6月13日	第50回日本リハビリテーション医学会学術集会	医療関係者	高次脳機能障害外来のあるべき姿 当院における高次脳機能障害外来の現状と取り組み 平岡崇
6月15日	愛媛十全医療学院同窓会	同校卒業生、PT、OT、ST、100名	注意障害の評価とリハビリテーション、種村純
6月23日	看護セミナー	看護師、100名	高次脳機能障害とは、失認症、種村純
6月25日	高次脳機能障害支援普及事業 平成25年度第1回支援コーディネーター会議	支援コーディネーター 100名	高次脳機能障害者の意思疎通への配慮・支援について 岡山県の取り組み 八木真美

7月6日	静岡脳外傷友の会	同会員、家族、地域支援者、150名	遂行機能障害のリハビリテーション、種村純
7月14日	日本高次脳機能障害学会 夏期教育セミナー	同学会員、ST、OT、500名	重度失語症状とその対応、種村純
7月20日	第16回病院脳神経外科学会	同学会員、200名	シンポジウム、高次脳機能障害、脳外科急性期病院から回復期リハへ、種村純
8月4日	日本言語聴覚士協会九州 地区学術集会	同会員、ST、150名	高次脳機能障害者に対する心理社会的援助、種村純
8月27日	七栗リハビリテーション セミナー	地域リハビリテーション関係者、200名	記憶の評価とリハビリテーション、種村純
8月29日	倉敷記念病院	医療関係者	高次脳機能障害 平岡 崇
9月8日	看護セミナー	看護師、50名	高次脳機能障害とは、注意障害、種村純
10月4日	吉備創生カレッジ	一般	脳の働き - 言葉を司る左脳 - 宮崎泰広
10月13日	看護セミナー	看護師、50名	高次脳機能障害とは、注意障害、種村純
10月25日	吉備創生カレッジ	一般	失語症の症状 宮崎泰広
11月8日	吉備創生カレッジ	一般	高齢者の言語機能 - あれ...あれだよ！ - 宮崎泰広
11月10日	福島県高次脳機能障害支援研修会	地域支援関係者、100名	失語症者の社会的支援、種村純
11月19日	真庭おしゃべり会講習会	医療、福祉、行政、家族 100名	「人が変わったのかしら?! ~ 目に見えない障がいを理解しよう」 川崎医科大学附属病院 八木真美 旭川荘 後藤祐之
11月30日	第37回日本高次脳機能障害学会学術総会		大脳損傷による嚥下障害の病態 椿原彰夫
12月15日	日本言語聴覚士協会高次脳機能障害認定言語聴覚士研修会	ST、25名	前頭葉機能障害、種村純
平成26年 1月18日	旭川荘療育アカデミー 「子どもの高次脳機能障	教育関係者 23人	川崎医科大学附属病院 宮崎彰子、八木真美

	害」		神奈川県リハ病院 栗原まな 旭川荘 後藤祐之
--	----	--	------------------------------

【広島県】

支援拠点機関	広島県立障害者リハビリテーションセンター 広島県高次脳機能センター 電話番号 082-425-1455 【地域支援センター】 (広島) 広島市総合リハビリテーションセンター 082-848-8001 (広島西) 廿日市記念病院 0829-20-2300 (呉) 呉中通病院 0823-22-2510 (広島中央) 井野口病院 082-422-3711 (尾三) 尾道市公立みつぎ総合病院 0848-76-1111 (福山・府中) 脳神経センター大田記念病院 084-931-8650 (備北) 三次地区医療センター 0824-62-6328
支援 Cd	2名(社会福祉士・精神保健福祉士、相談支援専門員)
相談者数(12月未)	支援拠点相談対応延べ件数 2047件 うち新規相談者延べ件数 185件(当事者・家族83件 関係機関102件)
活動実績	医療リハビリ(入院・外来) 院内家族セミナー(月2回開催 延べ 122名(12月末)) 高次脳機能障害研修会(年1回 186名) 地域の研修会への講師派遣 関係機関との連携会議の開催及び参画(62件中、小～大学校との連携6件、職業訓練校との連携6件、就労関係機関との連携(雇用事業所含む)27件、福祉関係機関との連携23件)
次年度の活動予定および課題など	<次年度活動予定> ・拠点施設機能の体制整備 評価、診断、リハビリ、相談支援、啓発活動の継続 高次脳機能障害者入院枠の拡大に伴う課題の整理 ・地域支援ネットワーク活動 広島県高次脳機能障害連絡協議会の開催 地域支援センターとの連携 関係機関との連携(就労・就学・福祉・医療等) 家族会との連携 ・各種事業への参画 広島県及び東広島市自立支援協議会への参画 雇用関係会議等への参画 職業能力開発校委託訓練における高次脳機能障害支援コースへの支援 <課題> ・地域支援センターの機能強化及び連携強化 ・地域の社会資源の開拓(地域包括支援センター及び相談支援事業所との

	連携) ・小児への支援（発達障害児支援機関や教育機関との連携）
--	------------------------------------

研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
H25.4.25	あけぼの高次脳機能障害勉強会	障害者支援施設あけぼの職員 10名	「高次脳機能障害の概要」 近藤啓太
H25.4.25	あいサポート研修	荒木脳神経外科 職員 40名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H25.6.14	広島市心身障害者福祉センター登録ボランティア、ボランティア養成講座生 研修会	登録ボランティア、ボランティア養成講座生 25名	「高次脳機能障害について」 富田昭
H25.6.27	あけぼの高次脳機能障害勉強会	障害者支援施設あけぼの職員 10名	「脳と認知機能の関係」 澤田梢
H25.7.5	NPO 法人ディサービスがってんクラブ	介護・福祉関係者 7名	「高次脳機能障害について」 澤田梢
H25.7.08	介護労働安定センター 研修	介護職 50名	「高次脳機能障害の理解と支援」 近藤啓太
H25.7.24	聖恵会 職員研修	職員 37名	「高次脳機能障害について」 花房萌子
H25.7.25	あけぼの高次脳機能障害勉強会	障害者支援施設あけぼの職員 10名	「脳と社会的行動障害の関係」 川原薫
H25.7.29	第1回廿日市てんかんフォーラム	医師 10名	「高次脳機能障害～医療現場の実際」 近藤啓太
H25.8.23	あけぼの高次脳機能障害勉強会	障害者支援施設あけぼの職員 10名	「脳と失語症のコミュニケーション障害の関係」 土肥洋子

H25.09.02	障害程度区分認定調査員現任研修	認定調査員 25名	「高次脳機能障害の特性について」 隅原聖子
H25.09.19	障害程度区分認定調査員現任研修	認定調査員 25名	「高次脳機能障害の特性について」 隅原聖子
H25.09.26	あけぼの高次脳機能障害勉強会	障害者支援施設あけぼの職員 10名	「高次脳機能障害の福祉サービス制度と就労支援の知識」 隅原聖子
H25.10.08	あいサポート研修	ケアマネージャー 40名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H25.10.13	全国マック協議会 平成25年度研修会	アルコール依存症患者支援者 30名	「高次脳機能障害の理解と支援のポイント」 近藤啓太 「リハビリテーションと本人への関わり方について」 澤田 梢
H25.11.14	特別支援学級専門性向上事業第7回研修会	教職員 30名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H25.12.26	あけぼの高次脳機能障害勉強会	障害者支援施設あけぼの職員 10名	「画像と症例」 近藤啓太
H26.1.15	あいサポート研修	皆賀園 職員 20名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26.1.21	相談支援従事者現任研修	相談支援従事者 140名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26.1.23	あけぼの高次脳機能障害勉強会	障害者支援施設あけぼの職員	「脳と失語症以外のコミュニケーション障害の関係」田中聡美
H26.2.20	呉市立中・高等学校教頭研修会	呉市立中・高等学校教頭	「高次脳機能障害について」 川原薫
H26.未定	広風園 職員研修	広風園 職員	「高次脳機能障害について」 小猿淳一
H26.3.27	あけぼの高次脳機能障害勉強会	障害者支援施設あけぼの職員	「あけぼの高次脳機能障害研修会 まとめ」 澤田梢

【島根県】

<p>支援拠点機関</p>	<p>【県支援拠点機関】 島根県立心と体の相談センター（ 0852 - 21 - 2885 ） エスポアール出雲クリニック（ 0853 - 21 - 9779 ）</p> <p>【圏域支援拠点】 （松江圏域）厚生センター相談支援事業所（ 0852-60-0560 ） （雲南圏域）そよかぜ館・そよかぜ館別館（ 0854-45-0771 ） （出雲圏域）エスポアール出雲クリニック（ 0853-21-9779 ） （大田圏域）亀の子サポートセンター（ 0854-84-0273 ） （浜田圏域）西部島根医療福祉センター（ 0855-52-2442 ） （益田圏域）相談支援事業所ほっと（ 0856-31-5433 ） （隠岐圏域）太陽（ 08512-2-5699 ）</p>
<p>支援 Cd</p>	<p>全県担当 1 名（心理技術者） 圏域担当者 7 名（精神保健福祉士、社会福祉士、相談支援専門員）</p>
<p>相談者数(12月末)</p>	<p>当事者/家族からの直接相談延べ件数 電話 652 件、来院/来所 923 件、メール・書簡 218 件、その他（訪問・出張・同行等）286 件 機関・施設等からの間接相談延べ件数 電話 1053 件、来院/来所 163 件、メール・書簡 36 件、その他（訪問・出張・同行）123 件</p>
<p>活動実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 圏域に相談支援拠点の設置し、各圏域でネットワーク会議、ケース検討会議を開催 ・ 支援機関職員を対象とした派遣研修の実施 （広島県立障害者リハビリテーションセンターに 2 名派遣） ・ 新聞等を活用した広報 （県広報誌（全戸配布）の特集記事として掲載） ・ 研修会の開催（全県、圏域単位） （県主催で小児の高次脳障がいテーマに研修会実施） ・ 高次脳機能障がい支援普及啓発ポスター、リーフレットの作成・配布（島根県の高次脳機能障がい者支援ネットワークシステムのポスター作成）
<p>次年度の活動予定および課題など</p>	<p>【活動予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域相談支援拠点を中心とした圏域単位での支援ネットワークを構築する。 ネットワーク会議、ケース検討会議（各 4 回程度）を圏域毎に開催 ・ 新聞等を活用した広報 ・ 研修会の開催等 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点施設、ネットワーク整備 ・ 圏域相談支援拠点におけるアセスメントの充実、専門性の確保 人材育成・普及啓発 ・ 一般的な普及啓発研修の充実及び支援関係者の資質向上 ・ 小児高次脳機能障がいの支援 ・ 地域住民の障がいに対する理解の向上 医療と福祉の連携

	・圏域相談支援拠点と医療機関との連携の充実
--	-----------------------

研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
H25.4.17	介護実践研修（(財)介護労働安定センター）	介護職員 28人	講義「コミュニケーション技術（実務者研修）」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H25.4.20	障がい児支援研修会（亀の子サポートセンター）	学校・保育・福祉関係者	講義「小児の『発達障がい』と『高次脳機能障がい』への関わりについて」 講師 鳥取県立総合療育センター・シニアディレクター 北原 侑 氏
H25.5.15 （東部） H25.5.23 （西部）	平成25年度市町村障がい福祉業務担当職員研修（心と体の相談センター）	市町村担当者 東部 31名 西部 28名	情報提供「高次脳機能障がいについて」 情報提供者 心と体の相談センター職員
H25.5.22	介護実践研修（(財)介護労働安定センター）	介護職員 28人	講義「障害の理解」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H25.6.18	八手会研修（八手会）	一般住民 7名	講義「障害の理解」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H25.6.22	第5回しまね高次脳機能障害研究会（しまね高次脳機能障害研究会・第一三共株式会社）	支援関係者等 114名	基調講演「高次脳機能障害の精神症状」 講師 東京福祉大学 社会福祉学部 教授 先崎 章 氏 座長 エスポアール出雲クリニック 院長 高橋幸男 氏 事例検討会 事例提供 こなんホスピタル 院長 福田賢司 氏
H25.8.10	平成25年度鳥根県高次脳機能障がい者支援研修会（東部鳥根医療福祉センター・鳥根県）	行政・保健・医療・福祉・教育関係者・当事者・家族 227名	テーマ「子どもの高次脳機能障がいと発達障がい」 講演「発達障がいとの共通点と違いについて」 講師 鳥取大学地域学部地域教育学科 教授 小枝達也 氏 事例紹介 座長 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏

H25.8.22	介護実践研修（(財)介護労働安定センター）	介護職員 23名	講義「コミュニケーション技術（実務者研修）」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H25.10.15	まつえ障がい児・者ボランティア講座（松江市社会福祉協議会）	ボランティア 20名	講義「高次脳機能障がいについて」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H25.10.24	（社福）みずうみ すまいる苑 職員研修（厚生センター相談支援事業所）	ヘルパー、施設職員 20名	講義「高次脳機能障がいの理解」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H25.11.18	平成25年度児童相談所職員研究協議会判定部会（児童相談所）	児童相談所職員 他 17名	情報提供「高次脳機能障がいについて」 情報提供者 心と体の相談センター職員
H25.11.20	介護職員研修（すずらん福祉センター）	介護職員 10名	講義「障がいの特性について」 講師 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H25.12.8	第6回しまね高次脳機能障害研究会	関係者、当事者、家族 75名	講演「高次脳機能障害についての医学的・福祉的施策の展望」 講師 国立障害者リハビリテーションセンター 学院長 中島八十一 氏 鼎談 国立障害者リハビリテーションセンター 学院長 中島八十一 氏 笑い太鼓家族会 代表 星川広江 氏 エスポアール出雲クリニック 院長 高橋幸男 氏
H25.1.11	平成25年度島根県高次脳機能障がい者支援研修会（島根県・西部島根医療福祉センター）	行政・保健・医療・福祉・教育関係者・当事者・家族 70名	テーマ「子どもの高次脳機能障がい」 講演「学びの場・生活の場を豊かに～高次脳機能障害を持つ子どもたちの復学支援を考える～」 講師 千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター 支援センター長 太田令子 氏 事例報告

			座長 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏
H25.2.1	しまね高次脳機能障がいリハビリテーション講習会（しまね高次脳機能障がいリハビリテーション講習会実行委員会）	支援関係者等 120名	基調講演「当事者と支援者でつむぐリハビリテーション」 講師 国立成育医療研究センター 発達評価センター長 橋本圭司 氏 シンポジウム「障がいとともに強く生きる」 コーディネーター 橋本圭司 氏
H25.3.8	平成25年度高次脳機能障がい地域支援ネットワーク中国ブロック研修会（中国ブロック協議会・島根県立心と体の相談センター）	関係者・当事者・家族・福祉・就労・医療・行政・医療関係者等 180名	テーマ「地域で生きる」 講義「地域における高次脳機能障がい者支援の取組」 講師 エスポアール出雲クリニック院長 高橋幸男 氏 シンポジウム「地域で生きる」 コメンテーター 日本脳外傷友の会 理事長 東川悦子 氏 座長 県支援コーディネーター 土江啓悦 氏

【鳥取県】

支援拠点機関	鳥取大学医学部附属病院（脳神経外科高次脳機能外来）
支援 Cd	1名（社会福祉士）
相談者数（12月末）	拠点機関 相談対応延べ件数 514件（当事者・家族、医療機関・行政等） 家族会 相談対応延べ件数 447件（当事者・家族、医療機関・行政等）
活動実績	<p>< 拠点の活動 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診断・評価・治療（病棟・外来） 高次脳機能障害専門外来設置（2006年より） ・ 相談支援 ・ 高次脳機能障がい支援者研修会の開催（9月、2月） ・ 地域の支援機関に対して、講演による啓発 <p>< 家族会の活動 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話や訪問による相談活動 ・ 県内3カ所で家族会定例会を開催 ・ 個別支援会議に参加

<p>次年度の活動予定および課題など</p>	<p>< 次年度の活動予定 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来創設時より受診経過のある方へのフォロー、神経心理検査などによる再評価 ・ 実務者に対する高次脳機能障がいに対する研修会 ・ 相談支援活動、定例会の開催 ・ 各地域でのつながり・支援を密にしていく活動 <p>< 課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関・施設への障害、制度の理解 ・ 相談支援後の家族を含めた患者さんへのフォロー ・ 認知療法など精神的なケアの場の必要性 ・ 地域（圏域）ごとの支援体制の強化と支援者間のつながり ・ 医療機関・支援機関の理解にばらつきがある 全ての医療科に理解が必要。 ・ 長期に渡る継続的な支援をする人がいない 県全体の相談支援体制強化 ・ 家庭内問題の調整が難しく支援が進まない 総合的な支援体制の確立が必要 ・ 高次脳機能障がい以外の障がいも併せ持っている患者及び家庭に対する総合的な支援体制の強化が必要。 ・ 子どもの高次脳機能障がいの対応が不十分 教育関係者との学習・話し合い
------------------------	---

研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
平成 25 年 5 月 15 日	米子市 Y M C A 医療専門学校主催の研修会	学生 23 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「高次脳機能障害と家族への支援」 講師：森田多賀枝
平成 25 年 5 月 19 日	全県研修会（主催：家族会）	会員 20 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「マイナス思考を手なずける認知療法入門」 講演、話し合い 講師：竹田伸也（鳥取大学医学系研究科）
平成 25 年 7 月 5 日	平成 25 年度第 1 回高次脳機能障がい支援普及事業関係者連絡会（主催：鳥取県）	医療・保健・福祉・行政等支援関係者 37 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演：「～高次脳機能障がい者のための～地域につなげるリハビリ」 講師：大山リハビリテーション病院 言語聴覚士 北山香代子氏 情報交換、意見交換
平成 25 年 7 月 21 日	西部地区研修会（主催：家族会）	会員 19 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床美術実習、意見交換会 講師：和田・和田・福本
平成 25 年 8 月 7 日	西部地区研修会（主催：家族会）	会員 10 人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床美術実習、意見交換会

			講師：和田・和田
平成 25 年 9 月 15 日	西部地区研修会（主催：家族会）	会員 15 人	・臨床美術実習、意見交換会 講師：和田・和田・福本・小林
平成 25 年 9 月 21 日	平成 25 年度第 1 回高次脳機能障がい支援研修会（主催：鳥取県、支援拠点）	教育、医療福祉関係者、当事者ご家族など 72 名	・講演：「小児の高次脳機能障害～その理解と対応～」 講師：神奈川県総合リハビリテーションセンター 栗原まな先生
平成 25 年 10 月 2 日	伯耆町地域懇談会（中祖）	一般 20 人	・「高次脳機能障害と地域生活について」 講師：森田多賀枝
平成 25 年 10 月 28 日	伯耆町地域懇談会（荘 3）	一般 20 人	・「高次脳機能障害と地域生活について」 講師：森田多賀枝
平成 25 年 11 月 12 日	平成 25 年度第 2 回高次脳機能障がい支援普及事業関係者連絡会（主催：鳥取県）	医療・保健・福祉・行政等支援関係者 21 名	・事例検討 事例提供者：エポック翼 精神保健福祉士 小林辰雄 ・情報交換
平成 25 年 11 月 17 日	西部地区研修会（家族会）	会員 17 人	・気の学びで家族支援を行う 講師：田淵正彦
平成 25 年 11 月 27 日	伯耆町地域懇談会（荘 1）	一般 30 人	・「高次脳機能障害と地域生活について」 講師：森田多賀枝
平成 26 年 1 月 9 日	鳥取短大専攻科	学生・教員 19 人	・「高次脳機能障害と支える愛・本人の思い」 講師：森田多賀枝・森田恒平
平成 26 年 2 月 15 日	平成 25 年度第 2 回高次脳機能障がい支援研修会（主催：鳥取県、支援拠点）	医療、福祉関係者、当事者ご家族など 200 名予定	講演 1：「支援拠点機関での支援を通して」 鳥取県支援コーディネーター 川上由加里氏 講演 2：「当事業所における支援の現状と課題」 エポック翼 サービス管理責任者 小林辰雄氏 講演 3：「在宅ケアでのサービス困難ケースについて」 ケア・サービス博愛 介護支援専門員 田光信明氏

			<p>講演 4：「運転免許取得等について」 鳥取県警察本部交通部運転免許課管理官 岡本憲明氏</p> <p>講演 5：「高次脳機能障害者の自動車運転について～自動車教習所と協業として～」 養和病院 リハビリテーション課課長 松本太蔵氏</p>
--	--	--	---

【山口県】

支援拠点機関	山口県立こころの医療センター 高次脳機能障害支援センター (0836-58-1218)
支援 Cd	2名(作業療法士、精神保健福祉士)
相談者数(12月末)	直接相談 520件(・来所/訪問 333 ・電話/メール/書簡 187) 間接相談 364件(・来所/訪問 66 ・電話/メール/書簡 298)
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・やまぐちリハビリの会(当事者・家族支援グループ) 6回/年 開催 県立大学演習授業と「やまぐちリハビリの会」のコラボ授業 「やまぐちリハビリの会」を通してのボランティア育成 ・研修会や勉強会等への講師派遣 ・山口県神経精神科医会との共同企画で研修会開催 ・地域自立支援協議会等、地域での各種協議会への参画 ・医師向けの「診断書作成の手引き」の作成・効率的配布 ・社会資源調査実施 ・神経心理学的検査の実施や解釈に関する講習会開催 (3月2日)
次年度の活動予定および課題など	<p>【活動予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携しての相談対応 ・医療連携に係る事例集の作成 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅に戻った後の認知リハビリ実施機関の開拓・掘り起し ・就労に向けての訓練機関の開拓・掘り起し ・医療機関との連携強化 ・他障害の相談窓口や支援者との連携、効率的な事業展開 ・小児高次脳機能障害者の普及啓発や支援

研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
H25.4.30	山口県立大学 ソーシャルワーク演習	山口県立大学 社会福祉学部学生 107人	高次脳機能障害について 退院して気づいた生活上 の障害 ・当事者 ・こころの医療センター 石原
H25.6.17 H25.7.1 H25.7.8	やまぐちリハビリの会と 山口県立大学とのコラボ 演習	山口県立大学 社会福祉学部学生 延べ26人	高次脳機能障害者当事者 支援グループの企画演習 ・こころの医療センター 石原
H25.7.27	山口県介護支援専門員協 会の研修会	山口県介護支援専門 員 136人	高次脳機能障害の基礎知 識と対応方法、制度と支援 について ・こころの医療センター 正司、石原
H25.9.15	山口県リハビリテーショ ン講習会	一般、医療保健福祉 スタッフ 269人	交通事故や脳卒中で脳が 傷ついたら ・熊本大学医学部附属病院 橋本衛、一美奈緒子 生活の中でできる工夫や 支援 ・クラブハウスてっぷなな 野々垣睦美 ・みなくるハウス 徳本 武司 ・当事者 ・家族
H25.10.17	北浦地区特別養護老人ホ ーム職員研修会	北浦地区介護職員等 25人	高次脳機能障害について ・こころの医療センター 石原
H25.10.20	高次脳機能障害支援生涯 教育研修会	神経精神科医会会員 医療保健福祉スタッフ 172人	山口県の支援状況 ・こころの医療センター 中山 高次脳機能障害デイケア の経験から見えること ・エスポアール出雲クリニ ック 高橋幸男 高次脳機能とその障害 ・国際医療福祉大学 鹿島晴雄
H25.11.7	高次脳機能障害に係る職 員勉強会	社会福祉法人暁会 介護職員等	高次脳機能障害について 支援者としての利用者理

		78人	解と支援の視点 ・こころの医療センター 正司、石原
H25.11.29	高次脳機能障害研修会	柳井圏域 介護支援専門員、介 護サービス従事者 90人	高次脳機能障害について ・こころの医療センター 石原
H25.12.11	高次脳機能障害について	三田尻訪問看護ステーション 訪問看護のスタッフ 15人	社会的行動障害の対処方法等 ・こころの医療センター 石原

D. 考察

中国5県各県から寄せられた共通の課題としては、全国的にも課題となっていると思われる 小児の高次脳機能障害への対応の未整備、支援の地域間均霑化の問題などが挙げられた。 について、中国ブロックにおいては一部の県を除いて、教育庁の協力が得られず対応に苦慮している現状が浮き彫りとなった。この点については取り組むべき喫緊の課題として、教育庁への働きかけを含め引き続き鋭意努力していくことが必要であると考えられた。

また岡山県における高次脳機能障害支援拠点医療機関として、川崎医科大学附属病院リハビリテーション科外来内に高次脳機能障害専門外来が開設されて10年となるため、この間に支援した患者の長期経過について電話聞き取り調査ならびに後方視的診療録調査を次年度開始予定である旨が報告された。川崎医科大学附属病院の高次脳機能障害外来には毎年約50名の新患患者の紹介があるため、概ね400-500名の患者が調査対象になるため、かなり大規模な情報が得られると考えられる。過去にこのような報告はなされていないため、高次脳機能障害者の社会参加支援の推進という観点からは、非常に重要な情報になりうるものと思われる。

今後も中国ブロックでの活動を継続し、各県からの情報を統合し検討することで更なる高次脳機能障害者の社会復帰支援の質の向上に寄与できるものとする。

E. 結論

中国ブロックとしては、本年度も効果的な活動が行われ、支援の質・量とも年々向上していることが確認された。しかし、まだまだ問題は山積しており、引き続き解決に向けた努力が必要であるとの結論に至った。